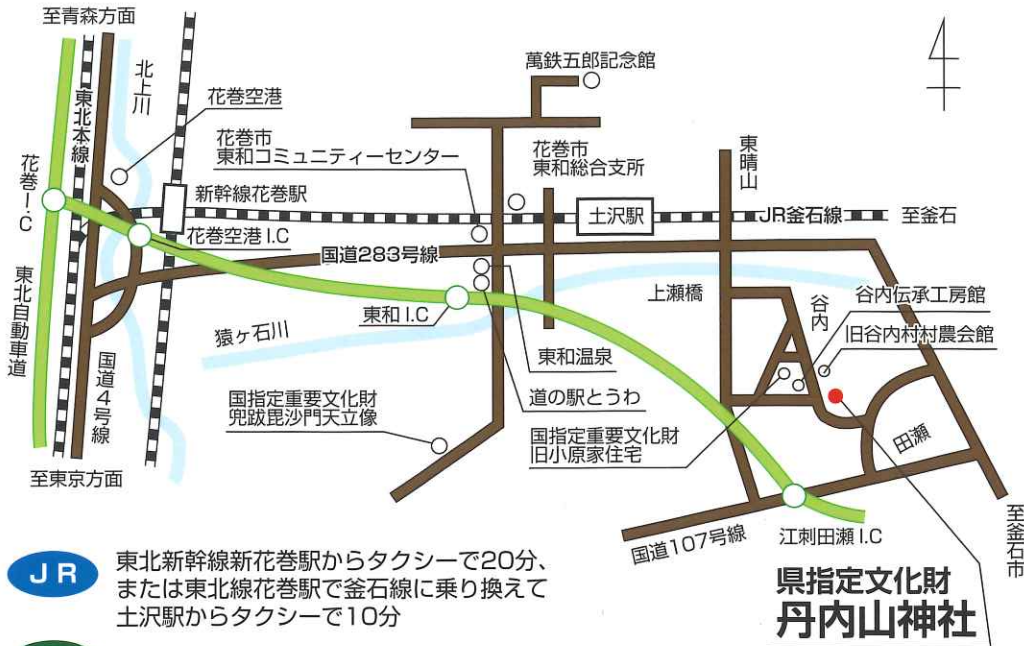


◎交通案内



JR

東北新幹線新花巻駅からタクシーで20分、
または東北線花巻駅で釜石線に乗り換えて
土沢駅からタクシーで10分

自動車

釜石自動車道 東和インター・江刺田瀬インターから車で10分

県指定文化財
丹内山神社

連絡先

丹内山神社 小原宮司宅

住所 岩手県花巻市東和町谷内2区290 TEL 0198-44-2623

丹内山神社関係指定文化財一覧

指定分類	名称	指定年月日	
県指定	彫刻	木造十一面観音立像	平成6年9月16日
	建造物	丹内山神社本殿附厨子	平成2年5月1日
	考古資料	丹内山神社経塚出土品	昭和40年3月19日
	史跡	丹内山神社経塚	昭和40年3月19日
市指定	彫刻	丹内山神社仏像(不動明王立像)	昭和32年3月31日
	建造物	丹内山神社一ノ鳥居	昭和45年4月14日
	考古資料	丹内山神社棟札	昭和39年7月21日
	工芸品	丹内山神社擬宝珠	昭和39年7月21日
	史跡	丹内山神社付属建物及び境内	平成17年6月16日
	無形民俗	丹内山神社社風流神楽	昭和40年8月27日
	無形民俗	金津流丹内獅子踊	昭和40年8月27日
	無形民俗	丹内山神社雅楽	昭和45年4月14日
	天然記念物	丹内山神社の爺杉の根	昭和45年4月14日

日本のふるさと
とらわ



岩手県指定有形文化財
藤原清衡篤信の杜

丹内山神社

丹内山神社の沿革

社伝によりますと、東和町東晴山の滝沢の滝に出現した赤子が、猿ヶ石川を渡り、赤子這山を登り、堂山の頂上にたどり着き、円い石を採って乗り、この石が落ちて止まった所に我は住むと誓って、石を転がします。その石が止まった所が現在の丹内山神社のところです。里人達は地域を守ってくれる神として社を建てて祀りました。

第五十四代仁明天皇の承和の頃（834年頃）、弘法大師の弟子日弘が布教の為来て、「当山は本地大聖不動明王霊滝に出現し、この霊山に垂述し玉う。予今一体の不動尊を安置大聖寺不動谷内権現と称し奉らん」と携えてきた秘仏の不動尊を御堂に納めました。以来谷内権現というようになります。しかし暫くしてから「種内権現」と呼ばれています。

延暦20年（8019）坂上田村麻呂が東夷追討の祈願をしています。また康平5年（1063）源頼義・義家親子が安倍貞任追討の時当山に祈願し、追討後義家が八幡神社・加茂義綱が加茂神社を建立しています。これが珍しい双社造り神社として鎮座しています。その後平泉を築いた藤原清衡が篤く信仰し、耕地24町歩と108ヶ所の社堂と108体の本地仏を寄進していますが、現在は一堂・一仏も残されていません。

応永7年（1400）和賀氏の家臣安俣小原氏が安俣に来て、谷内も領有します。応永12年（1405）荒廃していた種内権現を修復したという棟札が残されています。文化17年（1810）藩主南部利敬によって再興されました。現在の本殿がそれです。本殿の中には南部氏の家紋がついた厨子が納められています。建物は密教系仏堂の形式で建てられており、外壁には地元の彫刻名人千葉八重郎によって竹林の七賢人・中国二十四孝・小野道風などが彫られています。社殿の庇の梁には可愛い小動物が鎮座しています。その動物は何でしょう。

明治2年（1859）神仏分離令が出されて、大聖寺種内権現から丹内山神社に変わり、仏像の大部分は安俣の凌雲寺に移されます。

丹内山神社の本殿・観音堂の十一面観音像は県指定文化財、石橋の文政10年（1827）年号の擬宝珠・双社造りは町指定の文化財でしたが、境内全てを景観保全として平成17年に町指定にいただき、現在は花巻市指定文化財になっています。道際の一の鳥居は、材が杉の木で、鳥居としては珍しいものです。

丹内山神社の神域には数多くのものがあります。本殿裏には胎内岩があります。妊娠している女性が、穴をくぐって壁に触ることなく通り抜ければ安産とされています。男子は幸福が来るといわれています。くぐって見てください。神社の南北に湧き水があり、日照りでも枯れません。きれいな水です。古くに爺杉と祖母杉があり、火事で焼けましたが、木目を勘定したところ2000年前の弥生杉であることが分かりました。

裏庭には二基の経塚があり、白磁の四耳壺（県指定文化財）・中国の古銭などが出土しています。境内には「七不思議」があります。皆さんで探してください。

神主・別当は永徳2年（1382）秋田から物部氏が赴任しました。格の高い神社です。四代目までは物部氏で、五代目から現在までは小原氏です。現宮司の小原氏は初代物部氏から数えて第24代目です。本日の参詣有難うございました。

◎境内の七不思議

1. どんなに寒くても境内の建物につららができない
2. 境内に竹が生えない
3. 「肌石」と呼ばれる石には雪が積もらない（写真）
4. どんなに日照りが続いても水が枯れない鉢がある（写真）
5. 本殿脇障子に彫られている唐獅子をなめると居眠りしない
6. 境内にある銀杏の葉は強風でも境内の外に散らない
7. 爺杉の幹に桐の木が生えた



◎御祭礼

- ・元旦祭（1月1日）
元旦の朝、午前零時を期して、氏子崇敬者相集い新年の弥栄を祈願いたし新年の挨拶をとりかわします。
- ・厄祓祭（2月）
氏子崇敬者の厄年にあたる方々の合同厄祓祭がおこなわれます。
なお家内安全、商売繁盛、五穀豊穰等祈願いたし御神札が授与されます。
- ・鎮火祭（3月）
嘉永5年8月朔日、大正2年3月11日の2回にわたって、2千数十年を経て高さ20mに及ぶ老杉御神木の祖母杉、爺杉が烟火から産土神を守られました。
火の守りとして神に祈りを捧げます。
- ・例大祭（9月第1土、日曜日）
初日祭は御本社祭でありまして、上古地方開拓の祖神としての産土神の御前にひたすら神の御神徳とその御加護に対し報命感謝の誠を捧げます。
2日祭は相殿祭とも申され、祖霊社祭並びに観音堂祭、境内末社祭が荘重に賑々しく執り行われます。
- ・大祓祭（12月31日）
昔より禊の場所として伝えられる祓川は、神社の下を流れているが、水無月の大祓祭は行われず、現在は12月31日の夜、師走の大祓祭が厳粛に行われております。

◎本殿

江戸時代の1811年には、この地方の最高権力者「盛岡城の城主・南部氏」が祈願を行う場所に決めていたので、「丹内山大権現」と呼ばれました。

明治時代はじめの1868年までは神道と仏教2つの宗教が合同でこの社を使用していましたが、国の命令で、別々にすることになり、「凌雲寺」というお寺に仏像が移されました。それ以降この神社は「丹内山神社」と呼ばれています。



(県指定文化財)

1810年に作られた建物で、この地方のスペシャリストの千葉八重郎が素晴らしい彫刻でこの建物の周囲を飾りました。



○胎内岩 (市指定文化財)

本殿裏の胎内石(幅11.6m 奥行9.3m 高さ4.5m)の巨石。女性が穴をくぐり抜ければ子宝に恵まれ安産とされ、男性は幸福がくるといわれています。



○爺杉の根 (市指定文化財) 天然記念物

もとは高さ60m、根元の太さ12.2m、樹齢2000年を超える巨木であったが、大正2年に焼失し現在は根だけを残している。



○一の鳥居(市指定文化財)

嘉永元年(1848年)建立。つくられた当時は南部藩随一の杉の鳥居といわれた(高さ6.06m 幅4.45m~8.76m)



○擬宝珠(ぎぼうし) (市指定文化財)

石橋の欄干につけられている。文政10年(1827年)に神社の別当小原氏が納めた。

○祖霊社(通称 相殿) = 丹内観音堂

現在信徒が80数戸有り御霊様を安置し神葬祭により葬儀が執り行われております。



○経塚とその出土品(県指定文化財)

経塚2基とその出土品(白磁四耳壺、湖州鏡、中国古銭ほか) 平安時代末~鎌倉時代初めの頃



○境内の末社

八幡神社・加茂神社…二社造り(双社造り)のお社です。



八幡神社…八幡太郎義家の勧請によって成ったもので御祭神は品陀和気命(ほむだわけのみこと)、息長帯比売命(おきながたらしひめのみこと)の二柱でございます。

加茂神社…加茂次郎義綱の勧請に成り御祭神は鴨御祖神(かもみおやがみ)、鴨別雷神(かもわけいかずちがみ)の二柱でございます。



駒形神社…御祭神は駒形の神で畜産振興の守り神でございます。ほかに抱瘡神、安産神、雲南様等があります。